

SEKISUI

積水化学工業株式会社  
多賀工場

動植物図鑑

2015年度版



多賀工場動植物図鑑発行にあたり。

**積水化学グループ 環境ビジョン・中期計画**  
〔SEKISUI環境サステナブルビジョン2030〕

積水化学グループは土地の上に工場を建てたり、石油や木材を消費するなど事業活動が自然資本に依存していることを認識しています。

経営層及び社員一人一人が”環境推進力の高い人材”へと進化を図るとともに2030年には”地球から授かったもの以上に地球に返していく”ため「環境貢献製品の市場拡大と創出」「環境負荷の低減」「自然環境の保全」の3つの活動による貢献を軸に環境経営を推進していきます。

そして「自然資本へのリターンに貢献」していくことで”生物多様性が保全された地球”の実現に向けて際だつ価値を創造し続けます。

そのために、「生物多様性が保全された地球の実現の為にどのような活動で環境に貢献出来るか」について自ら考え行動する環境意識の高い集団で有り続けます。

今般、2013年より実施している生き物調査を発展させ多賀工場動植物図鑑を作成しました。

ご家族、職場で手にとって楽しんでいただければ幸いです。

感想等がございましたら安全環境課までご一報いただければ幸いです。

## 改定版発行に当たり(図鑑の見方)

この図鑑は2014年4月から2015年3月までの1年間に多賀工場の敷地内(外周を含む)と工業団地周辺で確認され、撮影できた動植物を中心をまとめ、初版を15年7月に発行しました。図鑑を通じ、多賀工場の生物多様性の取り組みを感じていただくとともに、多賀博物館での報告等を通じ、たくさんの貴重なご意見・ご感想をいただくことが出来ました。

今回、多賀博物館の展示(16年7月23日～8月21日)に合わせ図鑑を見直し、明らかなミスは修正し、植物はさらに園芸種を分別しました。

(園芸種が野生化した物は逸出種との記載を追記しました。)

また、「食べられる野草は？」との質問が多く寄せられたので食用可能なものは食の追記もしました。(尚、野草を食べるには下ごしらえ(毒ぬき等)が必要な物もあります。専門家の指導もと実施して下さい。)

図鑑は季節ごとに掲載し、確認した動植物は

- ①名前
  - ②観察場所(工場内or周辺)
  - ③在来・外来種の分別
  - ④確認出来る季節
  - ⑤一口メモ(特徴)
- がわかるように表記しました。

\*写真のみで種の区別が困難なものは初版のまま、もしくは～の仲間と表現しました。(間違いがありましたらご一報頂ければ幸いです。)

図鑑記載種総数132種

内訳

動物類21種類

植物類56種類(外来種22品種)

昆虫類55種類

動物は青、植物は緑(2色)、昆虫は白に背景を色分けしています。

### 記載例

#### ① ヒバリ (5/18撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③在来種(留鳥)
- ④4月～10月
- ⑤毎年工場内で観察出来る。空高く飛翔しながら鳴くのは、オスの縄張り行動。大きさはスズメより大きめの体をしている。(17cm位)

#### ①ハルジオン (5/30撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③外来種(北米原産)
- ④4月～5月
- ⑤工場外でも緑地があればほぼどこでも観察出来る。日本の侵略的外来種(W-rost)100多賀外来植物駆除活動の対象植物。ヒメジョオンに良く似ているが、茎が中空である。

野生種

園芸種

#### ①ベニシジミ (4/15撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種
- ④4月～11月
- ⑤ヒメジョオン、シロツメクサ等の花の蜜を吸う姿を良く見ることが出来る。春、夏、秋と断続的に観察できる。大きさ30mm前後の小さな蝶。

#### 注意

ワケ類は分類学上昆虫ではありませんが昆虫として扱いました。キノコ類も分類学上植物ではありませんが植物として扱いました。

①イタドリ (5/19撮影) 食



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種(アゲ科)
- ④7月～10月(花期・多年草)
- ⑤日当たりの良い山野などに群生。茎が太く中は空洞。雌雄異株。痛み取りとして使われた事が名前の由来。

①ヒメジョオン(5/28撮影)



- ②工場内(草のある空き地)
- ③外来種(キク科・北米原産)
- ④6月～11月(花期・多年草)
- ⑤蕾の時から上をむいたまま1固休あたり47000個の種子を持ち脅威的な繁殖力を持つ。  
日本の侵略的外来種W100

①ヒメオドリコソウ(花) (4/16撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③外来種(シソ科・ヨーロッパ原産)
- ④3月～5月(花期)
- ⑤葉の先端になるほど紫がかかるのが特徴。葉の両面に軟毛がある。

①シロツメクサ(5/8撮影) 食



- ②工場内(工場空き地)
- ③外来種(マメ科・ヨーロッパ原産)
- ④4月～11月(花期・多年草)
- ⑤江戸時代オランダからのガラス機器の摘め物(詰草)として使われた。明治期に牧草として移入、野生化した。受粉した花は下向きになる。

①セイヨウタンポポ(4/8撮影) 食



- ②工場内(工場空き地)
- ③外来種(キク科・ヨーロッパ原産)
- ④4月～11月(花期・多年草)
- ⑤食用に栽培した物が野生化。がくが反り返っているのが特徴。受粉しなくても結実する。

①スミレの仲間(4/24撮影) 食



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種(スミレ科)
- ④4月～5月(花期、多年草)
- ⑤道ばたに普通に咲く。世界の温帯で約450種、日本でも野生種だけで60種類生息。大工のスミレに似ていることから命名

①スギナ(6/26撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種(トクサ科)
- ④3月～4月(ツクシとして)
- ⑤胞子で繁殖するシダ植物。湿気の多い土壌に適しているが田畑にも生える。栄養茎(スギナ)と胞子茎(ツクシ)があり地下茎で繋がっている。

①ツクシ(スギナの胞子茎)(3/26撮影) 食



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種(トクサ科)
- ④3月～4月(ツクシとして)
- ⑤春の到来を告げる植物。食用とされる。スギナ(左参照)の胞子茎でスギナとは地下茎で繋がっている。

①ツツジの仲間(4/18撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③園芸種(ツツジ科)
- ④4月～6月(花期)
- ⑤日本を代表する美しい花木で、園芸種も多く様々な姿や色が楽しめる。工場外周を撮影。

①ハナミズキの仲間(4/18撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③園芸種(ミズキ科・北米原産)
- ④4月～5月(花期・落葉小高木)
- ⑤桜をアメリカに送ったお返しとして日本の街路樹等に広がる。花びらのように見えるのはがく。

①ムスカリ(4/15撮影)



- ②工場周辺(四手公園裏)
- ③園芸種(ユリ科・南西アジア原産)
- ④3月～5月(花期・球根の多年草)
- ⑤園芸店で人気の品種、球根で育てる。川の土手とかに普通に咲いている。逸出し野生化した物もある。

# 春

①ハルジオン(5/30撮影)



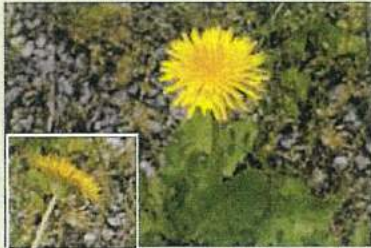
- ②工場内(草のある空き地)
- ③外来種(キク科・北米原産)
- ④4月～5月(花期・多年草)
- ⑤春に咲くキク科の紫菀(シオン)が名前の由来。花は白or淡紅色。ヒメシオンと似ているが茎が中空。  
日本の侵略的外来種W100

①フキ(4/9撮影) 食



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種(キク科)
- ④4月～5月(花期・多年草)
- ⑤水が豊富で風のあまり強くない場所で見られる。蕾はふきのとうとして食べる。茎は地上に伸びず地下茎で横に伸びる。地下茎は有毒。

①ニホンタンポポ(5/19撮影) 食



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種(キク科)
- ④4月～7月(花期・多年草)
- ⑤日本には約20種のタンポポが自生している。がくに反り返りがないのが特徴。近年、セイウタンポポとの交雑が見られる。

①アカツメクサ(5/7撮影) 食



- ②工場内(工場空き地)
- ③外来種(マメ科・ヨーロッパ原産)
- ④4月～10月(花期・多年草)
- ⑤明治期に牧草としてヨーロッパから移入、野生化した。シロツメクサと違い茎が地面を這わずに分岐して群生する。

①カラスノエンドウ(4/16撮影) 食



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③在来種(マメ科)
- ④3月～5月(花期・越年草)
- ⑤ツル性の越年草、実は黒く熟す。早春から咲き始め桜の開花の頃には咲き乱れる。新芽は天ぷら等で食べられる。

①ノゲシ(綿毛)(5/14撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③在来種(キク科)
- ④3月～10月(花期・越年草)
- ⑤タンポポを小さくしたような花。ヨーロッパ原産で有史以前に日本に入ってきたと言われている。葉の形状が「ケシ」に似ているが分類上は別種である。

①コウゾリナ(5/7撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種(キク科)
- ④4月～7月(花期・越年草)
- ⑤タンポポを小さくしたような花が沢山茎につきわたる毛もできる。里山の代表種。畦道などで生える。暖かい地域では通年花が見られる。

①ヘラオオバコ(5/14撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③外来種(オオバコ科・ヨーロッパ原産)
- ④5月～6月(花期・多年草)
- ⑤葉がへらのようになっている。長く立ち上げた花茎の先に穂状の花をつける。江戸時代に移入。

①ウマノアシガタ(4/24撮影)



- ②工場周辺(四手公園裏)
- ③在来種(キンポウゲ科)
- ④3月～5月(花期・多年草)
- ⑤花びらが馬の足型に似ているから名付けられたそうだが似ていない。日当たりのよい多湿地にはえる。キンポウゲとも呼ばれる。有毒。

①シバザクラ(白花)(4/14撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③外来種(ハナシバ科・北米原産・逸出種)
- ④3月～5月(花期・多年草)
- ⑤園芸用に種々改良が行われており同定がむずかしい。園芸種が野生化したものと推定する。

①シバザクラ(赤花)(4/15撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③外来種(ハナシバ科・北米原産・逸出種)
- ④3月～5月(花期・多年草)
- ⑤サクラに似た桃・紫・白の花を咲かせる。よく枝分かれし地面を覆いつくすように密生する。寒暑・乾燥に強く芝生の代わりに植えられる。

①ムクドリ (5/19撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③在来種(留鳥)
- ④通年
- ⑤冬に何万羽というねぐらを市街地の街路樹や送電線に作る。そのため害鳥として嫌われている。大きき24cmくらい。

①ケリ (5/19撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③在来種(留鳥)
- ④通年
- ⑤近畿以北の本州に局地的に繁殖。抱卵時は警戒心が強く巣の近くを通ると威嚇する。日本最大のチドリ。3年連続で工場内にて子育て実施。大きき36cmくらい。

①ハシボソガラス (4/28撮影)



- ②工場周辺(あけぼのパーク裏)
- ③在来種(留鳥)
- ④通年
- ⑤全国の平野部、農耕地等に生息。都市部より農耕地で多く見られる。足を交互に動かし歩く。大きき50cmくらい。

①ヒヨドリ (4/28撮影)



- ②工場周辺(四手公園裏)
- ③在来種(留鳥)
- ④通年
- ⑤平地から山地の林等どこでも居る興奮すると頭の羽毛を逆立てる。寒冷地に居るものは渡りをする。大きき28cmくらい。

①ベニシジミ (5/7撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種(日本本土)
- ④4月~11月
- ⑤ヒメジョオンシロツメクサ等の花の蜜を吸う姿を良く見ることが出来る。春、夏、秋と断続的に観察できる。25~35mmくらいの小さな蝶。

①ナミハナアブ (5/23撮影)



- ②工場内(ボイラー周辺)
- ③在来種
- ④3月~11月
- ⑤北日本を除き比較的簡単に見られる中型。アブでは無くハエの仲間。個体の変異が多い。大きき 11~15mm。

①モンキチョウ (5/8撮影)



- ②工場内(積水社周辺)
- ③在来種
- ④3月~10月
- ⑤全国で見られる。山地に少なく平地に多い。♀は白色と黄色型がある。大きき 40~50mm。

①ハムシの仲間 (5/23撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種
- ④4月~8月
- ⑤ハムシの仲間は国内に500種いる。葉を食う虫という意でハムシ(葉虫)という。イタリ(イタリ)の葉の上で発見。大きき 5~6mm。

①クマバチ (5/14撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種
- ④3月~10月
- ⑤ずんぐりとした体形で重たそうに飛ぶ。胸は黄色の毛で覆われている。大きき約23mm。

①カワゲラの仲間 (5/12撮影)



- ②工場内(リサイクルセンター周辺)
- ③在来種
- ④4月~7月
- ⑤幼虫は水の中で生活する。口は、退化し食物の摂取は不可能と考えられる。5

①ルリハナカミキリの仲間 (5/9撮影)



- ②工場内
- ③在来種
- ④5月~8月
- ⑤ハルジオンの花の上で発見。種が沢山いて同定が難しい。大きき8~12mm。

# 春

①ハクセキレイ(5/8撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③在来種(留鳥)
- ④通年
- ⑤尻尾を上下に振りながら歩く。  
以前は北海道のみだったが、近年本州中部まで繁殖域を拡大。  
大きさは、20cmくらい。

①キジ (4/25撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③在来種(留鳥)
- ④通年(春によく見る)
- ⑤日本の国鳥。  
本州～九州の平地、農耕地で見られる。ヘアでいる所を撮影。  
大きさは、  
♂(オス)80cm ♀(メス)60cm。

①アゲハチョウ (4/25撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種
- ④4月～10月
- ⑤春型と夏型があり、春型は黒い帯幅が狭く、黄白色の斑紋が目立って見える。大きさ70～90mm。

①セグロアシナガバチ (5/19撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③在来種
- ④4月～11月
- ⑤日本産のアシナガバチの中で最大。攻撃性は強い。灌木の枝、家の軒下などに巣を作る。  
大きさ16～22mm。

①ツバメ (5/30撮影)



- ②工場内(第一工場玄関)
- ③在来種(夏鳥・留鳥)
- ④4月～8月
- ⑤人家の軒下などに泥と藁などを材料にした営巣する。商家に巣ができること繁盛すると言われた。  
大きさ17cmくらい。

①コアオハナムグリ (5/8撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種
- ④5月～10月
- ⑤体にうぶ毛が多く生え、キ科の花の花粉を食べる。ハルジオンの花にて発見。大きさ10～14mm。

①ハラナグツチバチの仲間(4/22撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③在来種
- ④3月～8月
- ⑤地中に巣を作りコガネムシ科の幼虫に卵を生み付ける寄生バチ。タンポポの花の吸蜜中を撮影。

①シジミチョウの仲間(4/22撮影)



- ②工場内(守衛前花壇)
- ③在来種
- ④3月～11月
- ⑤チョウ類の中で最も種が多い。そのため同定が難しい。  
大きさ 20～30mm。

①ツバメシジミ (5/8撮影)



- ②工場内(積水社付近)
- ③在来種
- ④3月～11月
- ⑤ヤマトシジミ、ルリシジミとともに各地で見られるシジミ蝶。ハネに尾状突起があり区別出来る。  
大きさ 26～33mm。

①ヒメヒラタアブ (5/9撮影)



- ②工場内
- ③在来種
- ④5月～9月
- ⑤腹部に4本の黄色の帯がある。  
卵から成虫までの生活環が最短で16日で完了する。

①ジガバチの仲間 (5/19撮影)



- ②工場内
- ③在来種
- ④5月～9月
- ⑤地中に巣をつくり、いろいろな昆虫の幼虫に卵を生み付けつける狩人バチ。

①シモツケの仲間 (6/11撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③園芸種(バラ科)
- ④6月~8月(花期)
- ⑤古くから庭木として親しまれている。初夏に桃色または白色の花が咲く。工場外周で発見。

①ホオジロ(♂) (6/9撮影)



- ②工場周辺(四手公園裏)
- ③在来種(留鳥・夏鳥(北海道))
- ④通年
- ⑤河川敷、湖沼畔にある葦原、スキ原に生息。♂(オス)は名の通り頬が白い。大きさ17cm程度。

①エノコログサ (7/23撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③在来種(イネ科)
- ④7月~10月(花期・1年草)
- ⑤別名ネコジャリ、夏の代表的な雑草。犬(エノコ)の尻尾に似ているのでその名がついた。

①ネジバナ (7/11撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種(ラン科)
- ④4月~8月(花期・多年草)
- ⑤初夏にピンク色の花が螺旋状に咲く。花は小さいがラン科特有の凛とした美しさがある。工場の芝生に生える。

①アカガエル幼生 (6/3撮影)



- ②工場周辺(あけぼのパーク裏)
- ③在来種
- ④5月~7月(幼生として)
- ⑤アカガエルのおたまじゃくしあけぼのパークの裏のたんぼで5月の下旬から7月の中旬まで簡単に確認できる。

①ヒメジョオン (7/15撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③外来種(キク科・北米原産)
- ④6月~10月(花期・越年生1年草)
- ⑤種名はヒメジョオンでなくヒメジョオン日本の侵略的外来種W(ワースト)100ハルジオンと似ているが茎が中空でない。観賞用植物が野生化した。場内で一番多い植物(13年8月調査)

①オオシロカラカサタケ (7/11撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種(ハラタケ科)
- ④7月~10月
- ⑤芝生、草地で観察できる。熱帯~亜熱帯に見られる毒キノコ。近年温暖化に伴い生息地を北に広げていると言われる。

①ノアザミ (7/6撮影) 食



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種(キク科)
- ④5月~8月(花期・多年草)
- ⑤夏に咲くアザミ。花びらのない筒状花。昆虫が花にふれると芯が動き花粉があふれ出る。葉に棘がある。

①シモツケの仲間 (6/10撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③園芸種(バラ科)
- ④6月~8月(花期)
- ⑤白色品種(上段左参照)。樹の大きさは1m程度。育て易く寒さにも強い。秋には紅葉する。工場外周で発見。

①オオキンケイギク (6/4撮影)



- ②工場周辺(あけぼのパーク周辺)
- ③外来種(キク科・北米原産・逸出種)
- ④7月~9月(花期・多年草)
- ⑤日本の侵略的外来種W100。道路、河川法面の緑化用に80年代に輸入使用し、野生化。近江八幡長命寺川の群生は有名。

①シマスズメノヒエ (8/7撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③外来種(イネ科・南米原産)
- ④8月~10月(花期・多年草)
- ⑤長い花茎の先の方に太い穂を少数つける。スズメノヒエに似ているが穂に毛が多い。1915年小笠原で初めて確認された。芝生に侵入する。



# 夏

①アオサギ (6/9撮影)



- ②工場周辺(あけぼのパーク裏)
- ③在来種(留鳥・夏鳥(北海道))
- ④通年
- ⑤水田、湖沼、池、河原等に生息。夏と冬で羽色が異なる日本最大のサギ類。黄色の脚が赤の時は婚姻色。大きさ93cmくらい。

①ツユクサ (10/21撮影)



- ②工場内(粘着タンク付近)
- ③在来種(ツユクサ科)
- ④6月～10月(花期・一年草)
- ⑤畑や道端で普通に見られる。きれいな青色の花が咲く。早朝に咲いた花は午後にはしぼんでしまう。

①ヒバリ (8/5撮影)



- ②工場内(工場建設予定空地)
- ③在来種(留鳥・夏鳥(北海道))
- ④通年
- ⑤草地、農耕地、河川敷などに生息する。工場内でヒバリが鳴くのを観察できる。大きさ17cmくらい

①アジサイの仲間 (7/11撮影)



- ②工場周辺(他社様外周)
- ③園芸種(アジサイ科・日本原産)
- ④5月～7月(花期・落葉低木)
- ⑤ヨーロッパで多種品種改良された。花に見えるのはカクが変化したもの。梅雨の代表的な花。

①ハナハマセンブリ (7/11撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③外来種(リンドウ科・ヨーロッパ原産)
- ④6月～8月(花期・1年草)
- ⑤80年代後半に帰化が確認された外来種。ペニバナセンブリと類似しているが開花時期の根生葉が異なる。工場内で観察出来る。

①コヒルガオ (6/3撮影)



- ②工場内(リサイクルセンター周辺)
- ③在来種(ヒルガオ科)
- ④5月～8月(花期・ツル性多年草)
- ⑤ヒルガオに比べ花が小さい(4cm弱)最近ヒルガオとの雑種もみられ同定が難しい。地下茎で繁殖。

①ヤハズソウ (8/11撮影)



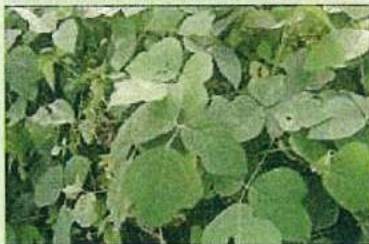
- ②工場内(積水社周辺)
- ③在来種(マメ科)
- ④5月～7月(花期・1年草)
- ⑤日当たりの良い、やや湿った場所に育成する。茎は細く硬く、節がある。節ごとに葉が付く。

①チガヤ (7/6撮影) 食



- ②工場内(第二工場ポンプ室周辺)
- ③在来種(イネ科)
- ④6月～7月(花期・多年草)
- ⑤穂が揺れる姿は夏の草原の風物詩。根茎に利尿作用あり。「ぬきんば」と呼ばれ、わずかに甘い若い穂は子どものおやつになった。

①クズ (7/24撮影) 食



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種(マメ科)
- ④7月～9月(花期・ツル植物)
- ⑤秋の七草の一つ。根に多量のデンプンが貯蔵され葛粉の原料になる。農耕馬飼料、結束紐、葛布等に利用されていたが最近では放置されている。

①ニシキダケ (7/14撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種(ペニダケ科)
- ④7月～10月
- ⑤おもに雑木林等にはえるが、地上でも観察できる。赤と黄色の混じる美しい笠きのこ。

①ビョウヤナギ (7/11撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③園芸種(オキリツウ科・中国原産)
- ④6月～7月(花期・植生)
- ⑤低木で鑑賞用価値が高く、各地で植えられている。守衛室脇の外周で発見。

①カノコガ (6/9/撮影)



- ②工場内(積水社付近)
- ③在来種
- ④6月～9月
- ⑤ガの仲間だが日中飛翔し、明かりには飛翔しない。平地～丘陵に生息。腹の黄褐色の帯が特徴。大きさは30～37mm。

①アブラゼミ (8/11撮影)



- ②工場内(積水社付近)
- ③在来種
- ④7月～9月
- ⑤平地から低山で観察。どこにでも見られる代表的なゼミ。ケヤキやサクラを好む。大きさは53～60mm。

①ショウリョウバッタ (7/16撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③在来種
- ④7月～11月
- ⑤平地～丘陵、背丈の短い草原に生息する。褐色の個体もある。比較簡単に見られる。大きさは40～80mm。

①アオドウカネ (7/14撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種
- ④6月～10月
- ⑤平地～丘陵、広葉樹林などでみられる。公園のサクラ、アジサイにもいる。灯りにもよく飛来する。大きさは18～25mm。

①マメコガネ (7/18撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種
- ④5月～10月
- ⑤イトリ等マメ科の植物に集まる。北米ではジャパニースビートルと言われる侵略的外来種W100に選出。大きさは12～18mm。

①アメンボ (6/4撮影)



- ②工場周辺(あけぼのパーク裏)
- ③在来種
- ④4月～10月
- ⑤平地の湖沼、田んぼに見られる。水面に落下した昆虫の体液を吸う。大きさは11～16mm。

①シテムシの仲間 (6/6撮影)



- ②工場内(ホイラー室周辺)
- ③在来種
- ④4月～10月(成虫越冬)
- ⑤腐敗した動物の死骸に集まる。食餌を丸めて地中で産卵する。大きさは20～24mm。

①プチヒゲカメムシ (7/14撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種
- ④4月～11月
- ⑤草地、河原などでみられる。幼生はマメ科、キク科、ダイコン、イネなどを食草する。大きさは13～18mm。

①ヒシバッタの仲間 (7/16撮影)



- ②工場内(積水社周辺)
- ③在来種
- ④4月～10月
- ⑤平地～丘陵、畑地、荒地など普通に見られる。大きさは9mm～15mm。

①ツバメジミ (6/6撮影)



- ②工場内(積水社周辺)
- ③在来種
- ④3月～10月
- ⑤年3～4回発生。幼虫はマメ科のシロツメグサ、カラスノエンドウなどを食草。ハネの表面は♂(オス)は青紫、♀(メス)は黒。大きさは26～33mm。

①シオカラトンボ(♂) (8/18撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種
- ④5月～10月
- ⑤平地の池、沼、田んぼ、湿地帯等いたるところで見られる。最もホビュラーなトンボ。♂(オス)と♀(メス)は色が異なる。大きさは47～61mm。

# 夏

①アブラゼミ(抜殻) (8/6撮影)



- ②工場内(守衛所周辺)
- ③在来種
- ④7月～9月
- ⑤植栽された守衛所脇のケヤキの木で発見しました。このことは敷地内で確実に生態系が循環していることを示しています。おおよさ53～60mm

①ショウジョウトンボ(8/20撮影)



- ②工場内(ボイラー室周辺)
- ③在来種
- ④5月～11月
- ⑤俗称アカトンボは春先から晩秋まで観察できることが確認できました。また沢山の種類があり同定が難しいトンボの種です。(秋も参照)

①マメコガネ (7/18撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種
- ④5月～10月
- ⑤マメコガネは緑、銅、青藍等色の個体がいる。写真は褐色系の個体。アツクサにいたるところを発見。大きさ12～18mm。

①チョウの仲間 (6/3撮影)



- ②工場周辺(あけぼのパーク裏)
- ③在来種
- ④3月～10月
- ⑤平地～山。林縁やその周辺や畑などでも見られるが同定ができなかつた。羽に黒筋がある。大きさ50mm～60mm。

①ウラギンヒョウモン (6/3撮影)



- ②工場周辺(工場正門付近)
- ③在来種
- ④4月～9月
- ⑤平地～山、農耕地周辺で見られる。成虫は盛夏に夏眠する性質がある。草原減少で個体数が減少傾向。大きさ55mm～70mm。

①ナナホシテントウ (6/6撮影)



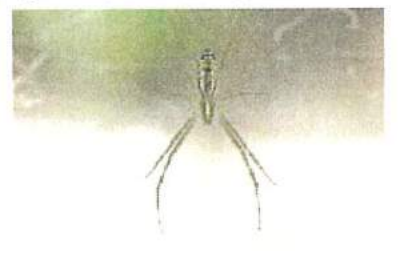
- ②工場内(工場建設予定地)
- ③在来種
- ④3月～11月
- ⑤春先から活動しマメ科、キク科の植物で普通に見られる。成虫、幼虫ともアブラムシを食べる。大きさ5～8mm。

①コガネグモの仲間 (7/16撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種
- ④4月～11月
- ⑤クモとしては大型。夏に成熟する。雄は小さく茶色をしている。腹部は幅広く、脚は太め。大きさ20mm程度。(♂は♀の1/5)

①ジョロウグモ (7/16撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種
- ④4月～11月
- ⑤夏から秋にかけて大きな網を張る目立つクモ。コガネグモと混同されやすい。大きさ20mm程度。

①セマダラコガネ (6/6撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種
- ④5月～9月
- ⑤広葉樹の葉やショウマ類の花に見られる。平地の体科でも見つかる。黒模様には個体差がある。大きさ8～14mm。

①クロマルハナバチ (6/9撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種
- ④4月～10月
- ⑤平野部の里山に生息する。舌が短く花筒が短い花を好む。大きさ10～21mm。

①シオヤムシヒキ (7/6撮影)



- ②工場内(積水社付近)
- ③在来種
- ④7月～8月
- ⑤草地、林縁地に普通に見られるハチ目の昆虫を好んで食べる。おおよさ20～30mm。

①スズメ (11/27撮影)



- ②工場周辺(あけぼのパーク)
- ③在来種(留鳥)
- ④通年
- ⑤どこでも見られる野鳥。あまり人になつかない。大きさは14cmくらい。

①ニホンザル (11/20撮影)



- ②工場内
- ③在来種
- ④通年
- ⑤本州以南。下北半島が北限。近年タイワンザルとの交雑が問題化、農作物の獣害も課題。秋から冬に工場に出没する。

①カキ (10/31撮影)



- ②工場周辺(四手公園裏)
- ③園芸種(東アジア原産)
- ④10月～12月(果実)
- ⑤柿は、「生理落下」と言って、柿自身が着果過多を防ぐ為実を落とす傾向にある。

①セイタカアワダチソウ(10/16撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③外来種(キク科・北米原産)
- ④10月～11月(花期・多年草)
- ⑤日本の侵略的外来種W100。繁殖力が強く、高さが1mを超えることもある。

①シジュウカラ (10/31撮影)



- ②工場周辺(四手公園裏)
- ③在来種(留鳥)
- ④通年
- ⑤平地、山地の林などに生息。雑食性で果実、昆虫等を食す。大きさは15cmくらい。

①ミツバアケビ (10/21撮影) 食



- ②工場周辺(四手公園裏)
- ③在来種(アケビ科・ツル植物)
- ④4月～5月(花期)
- ⑤ツル性の植物で3枚の小葉がある。春に花を付け秋に実(写真)を付ける雌雄同株、雌雄異花である。果実は食用になる。

①タカサゴユリ (8/25撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③外来種(ユリ科・台湾原産・逸出種)
- ④6月～9月(花期・球根の多年草)
- ⑤園芸用に移入された。種子を多く付け、風で運ばれ荒野で広く生息する。連作障害がある。近年テッポウユリとの交雑が見られる。

①アレチヌスビトハギ (9/29撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③外来種(マメ科・北米原産)
- ④8月～10月(花期・1年草)
- ⑤ヌスビトハギ(在来種)とは実の形と数(節2個と4個)が違う。服に実がハッキリと付く。

①キツネノマゴ (10/23撮影)



- ②工場内(積水社周辺)
- ③在来種(キツネノマゴ科)
- ④8月～10月(花期・一年草)
- ⑤道端、野原、田畑の畦などに見られる。茎の先や葉脈に穂状に小さな花が咲く。

①ハナミズキ (10/30撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③園芸種(ミズキ科・北米原産)
- ④10～11月(結実期、落葉小高木)
- ⑤ハナミズキの実です。(春の花と比較してください) 一青窈さんの歌にもなっています。

①ヒガンバナ (9/30撮影)



- ②工場付近
- ③外来種(ヒガンバナ科・中国原産)
- ④9月～10月(花期・球根の多年草)
- ⑤田んぼのあぜ道等に咲く。有毒植物。夏と秋の端境期に咲き晩秋に葉を付ける。

# 秋

①カルガモ(11/28撮影)



- ②工場周辺(工業団地貯水池)
- ③在来種(留鳥・北海道(夏鳥))
- ④通年
- ⑤都会でも簡単に観察できる。ヒケをつれて移動する姿が話題になる。大きさ60cmくらい。

①ヤマカガシ(幼性 (9/11撮影)



- ②工場内(ホイラ-室周辺)
- ③在来種
- ④通年(冬は冬眠)
- ⑤幼生は首周りに黄色の環がある。毒蛇だが毒牙は喉の奥にあり、人が噛まれても毒牙に触れるのはまれ。

①トビ (11/17撮影)



- ②工場周辺(あけぼのパーク裏)
- ③在来種(留鳥)
- ④通年
- ⑤農耕地、山地の林等で見られる。死んだ動物の肉を主食とするが魚・昆虫なども食べる。大きさ♂(オス)58cmくらい。

①ススキ(10/29撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種(禾科)
- ④8月~10月(花期・多年草)
- ⑤昔は屋根材に使用するため茅場で栽培していた。草原の最終の状態。放置すると樹木(アカマツ)が生え松林に移行する。北米では侵略的外来種W100。

①ヒヨドリバナ(9/22撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種(キク科)
- ④8月~10月(花期)
- ⑤日本各地の日当たりの良い林道脇、草原等で見かける。フジバカマに似ているが葉が3つに裂けない。

①コスモス (11/12撮影)



- ②工場内(消火ポンプ室周辺)
- ③外来種(メキシコ原産・逸出種)
- ④9月~10月(花期・一年草)
- ⑤種をまく園芸植物。移入経路は不明だが、種子が場内に持ち込め自生、開花したものと推定。

①アキノノゲシ (11/7撮影)



- ②工場内(粘着剤タンク周辺)
- ③在来種(キク科)
- ④9月~11月(花期・二年草)
- ⑤レタスの花に似ている。葉がケシに、花が春咲くノゲシに似ている。ノゲシより黄が薄い。

①ヒヨドリバナ?(若芽)(11/14撮影)



- ②工場内(積水社付近)
- ③在来種(キク科)
- ④8月~10月(花期・多年草)
- ⑤綺麗な模様の若芽を発見したので撮影しましたが同定が出来ませんでした。ヒヨドリバナがウイルス感染(ジミコウイルス)するとこの様な模様にもなるそうです。

①アカマツ(実) (11/6撮影)



- ②工場周辺(四手公園裏)
- ③園芸種(マツ科・常緑高木)
- ④4~5月(花期 実は10月~)
- ⑤マツボックリは花では無く実。ススキ草原からアカマツが育ち草原が林に移移する。

①ノゲイトウ(10/22撮影)



- ②工場周辺(四手公園裏)
- ③園芸種(ヒユ科・熱帯アジア原産)
- ④7月~11月(花期・1年草)
- ⑤切り花として多賀町で良く栽培された。逸出し野生化したものもある。花穂は長い柄があり、淡紅~白の光沢がある。

①ゴンズイ(11/6撮影)



- ②工場周辺(四手公園裏)
- ③在来種(ミツバウツキ科)
- ④5~6月(花期・落葉小高木)
- ⑤高さは通常3~6m程度。樹皮は紫黒色で細長い割れ目状の皮目が縦に走る。名前は樹皮が魚のゴンズイに似ていることによる。

①アキアカネ (10/1撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種(日本固有種)
- ④6月～12月
- ⑤アトソホの代表格。  
成熟しても、あまり赤くならない。  
大きさは、33mm～46mm。

①ハラビロカマキリ (10/3撮影)



- ②工場内(2工場ポンプ室付近)
- ③在来種
- ④8月～11月
- ⑤前足の基部に小さな黄色の突起あり。緑と茶の固体がある。  
大きさは、45mm～70mm。

①クルマバッタモドキ (9/24撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③在来種
- ④7月～11月
- ⑤クルマバッタよりも多く、背中が真っ直ぐ。♀(メス)の大きさは、55mm～65mm。

①ナツアカネ (11/7撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種
- ④6月～12月
- ⑤アトソホの代表格。  
アキアカネに似るが朱色が濃い。  
大きさは、33mm～45mm。

①オンブバッタ(10/17撮影)



- ②工場内(守衛所花壇)
- ③在来種
- ④6月～11月
- ⑤飛ぶ事ができずにビョンビョンと跳ね回る。♀(メス)の大きさは、40mm～42mm。

①モンキチョウ(10/23撮影)



- ②工場内(積水社付近)
- ③在来種
- ④3月～11月
- ⑤年2回発生する。  
幼虫は様々なマメ科の葉を食べる。大きさは40mm前後。

①ツマグロヒョウモン(11/6撮影)



- ②工場周辺(四手公園裏)
- ③在来種
- ④4月～11月
- ⑤地球温暖化に伴い、勢力を北に伸ばしている。♀(メス)のハネ先は青く、♂(オス)より美しい。

①カタツムリの仲間(10/16撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③在来種(推定)
- ④通年
- ⑤海にいた貝が陸地の隆起により地上に住むよう適応したと言われていて、地域で固有に進化して種の同定が困難な生物です。

①ツユムシ (11/11撮影)



- ②工場内(ボイラー室周辺)
- ③在来種
- ④8月～11月
- ⑤小さなキリギリス。  
草の葉を食べる草食性。  
大きさ 29mm～37mm。

①コモクメトウ(幼虫)(11/19撮影)



- ②工場内(第一工場玄関付近)
- ③在来種
- ④7月～9月(成虫出現期)
- ⑤成虫はどこでも見られる蛾。  
イモシ(幼虫)はホキリ草を食べ、春と秋に2度見られる。  
蛹で越冬。大きさ 25mm位。

①ホソヒラタアブ(10/22撮影)



- ②工場内(第二工場ポンプ室付近)
- ③在来種
- ④3月～11月
- ⑤腹部は、黄橙色と黒の縞模様。  
節に太い線と細い線が2本づつあるスマートなアブ。

# 秋

①ハラビロカマキリ(茶)(10/16撮影)



- ②工場内(積水社付近)
- ③在来種
- ④8月~11月
- ⑤褐色型。樹液や果実にくるチョウを餌にしている。卵のうで越冬し、春に孵化する。

①ノシメトンボ (9/22撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種
- ④6月~11月
- ⑤アトトンボの中で一番大きい。ハネの先端が黒褐色部分がある。大きさは、40mm~50mm。

①ヤマムコ (9/30撮影)



- ②工場内(廃棄物置き場周辺)
- ③在来種
- ④8月~10月
- ⑤ヤマムコ科の口は、完全に退化し一切の食餌を摂らず幼虫期に蓄えた栄養だけで生きる。

①ヒガシキリギリス (10/9撮影)



- ②工場内(ホイラー室周辺)
- ③在来種
- ④6月~11月
- ⑤成虫になると肉食性が強くなり昆虫を食べる。ニシキリギリスとヒガシキリギリスがいる。大きさは、38mm~48mm。

①チャバネセセリ(9/29撮影)



- ②工場内(守衛所花壇)
- ③5来種
- ④5月~11月
- ⑤後ハネの白紋は小さく目立たない。夏の終わりから秋にかけて個体数が増加。

①クルマバッタ (10/1撮影)



- ②工場内(ホイラー室周辺)
- ③在来種
- ④7月~11月
- ⑤ノサマバッタに似るが、背中が少し膨らんで見える。後ハネに黒帯。大きさは、♀(メス)が55mm~65mm。

①オオハナアブ (9/29撮影)



- ②工場内(守衛所花壇)
- ③在来種
- ④4月~12月
- ⑤丸い体形が印象的。腹部が黄色と黒で斑模様。大きさは、14mm~16mm。

①バラシロエダシャク(10/22撮影)



- ②工場内(工場外周)
- ③在来種
- ④4月~9月
- ⑤白地に黒い模様が特徴。黒の斑点は個体差が大きい。幼虫はバラ科の葉を食べる。大きさは20mm~35mm。

①ツマグロキンバエ (9/30撮影)



- ②工場内(守衛所花壇)
- ③在来種
- ④6月~10月
- ⑤ハネの先端が黒い。口器は長く突き出ている。草原の花でみられる。

①トビズムカデ (9/24撮影)



- ②工場内(リサイクセンター付近)
- ③在来種
- ④4月~10月
- ⑤日本最大のムカデ。サソリより強い猛毒を持つ。肉食性。大きさは、最大200mm。

①セイタカアワダチソウ(12/2撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③外来種(北米原産)
- ④多年草(キク科)
- ⑤花期(10~11月)を過ぎ冬期枯れた状態を撮影しました。(秋の写真と比較してください。)

①キンクロハジロ(3/27撮影)



- ②工場周辺(工業団地貯水池)
- ③在来種(渡り鳥)
- ④12月~3月
- ⑤ロシア等繁殖し日本等で越冬する。全国で見られる冬鳥。大きさ40cmくらい。



①ヒマラヤユキノシタ(12/2撮影)



- ②工場周辺(他社様外周)
- ③園芸種(ユキノシタ科・ヒマラヤ周辺国原産)
- ④3月~5月(花期・多年草)
- ⑤他社様の外周で発見。原種は10種程度あり園芸用に品種改良(交雑)されている。寒さに強い。横に広がるので地面の覆いに利用。

①ツグミ(3/30撮影)



- ②工場内(積水社付近の樹木)
- ③在来種(渡り鳥)
- ④12月~3月
- ⑤ロシア極東で繁殖し、日本、台湾等で越冬する。大きさ24cmくらい。

①ムクドリとツグミ(3/24撮影)



- ②工場内(工場建設予定地)
- ③在来種(留鳥)
- ④通年
- ⑤日本の代表的な野鳥。冬の終わりに並んでいる姿を撮影。地面にいる昆虫等を捕食する。大きさ24cmくらい。

①スズメ(3/27撮影)



- ②工場周辺(あけぼのパーク裏)
- ③在来種(留鳥)
- ④通年
- ⑤日本を代表的する野鳥。寒さを凌ぐため体を丸めている姿(寒雀)を撮影。大きさ14cmくらい。



# 冬

①ダイサギ (12/5撮影)



- ②工場周辺(あけぼのパーク裏)
- ③在来種(渡り鳥)
- ④5月～9月,12～3月
- ⑤代表的な夏鳥だが越冬する鳥もいる。大陸種は冬鳥扱い。大型の鳥で90cmくらい

①セグロセキレイ (2/25撮影)



- ②工場内(第2工場屋根)
- ③在来種(留鳥)
- ④通年
- ⑤北海道から九州までみられる日本の固有種。工場屋上で囀る姿を撮影。大きさ21cmくらい

①ヤブツバキ (3/30撮影)



- ②工場内(他社様外周)
- ③園芸種(ツバキ科)
- ④1月～3月(花期)
- ⑤工場の外周に植林されている。化粧品メーカーのロゴにも使用されている。照葉樹木の代表種。

①ツバキの仲間 (11/14撮影)



- ②工場周辺(他社様外周)
- ③園芸種(ツバキ科)
- ④11月～3月(花期・常緑低木)
- ⑤かなり古い時代から庭木として利用されている。園芸用として品種改良がなされ沢山の種類がある。

## 使用語句について

- ・外来種 = 人間活動の影響で他地域から持ち込まれたもの
- ・在来種 = 従来からその地域で生息、育成するもの
- ・侵略的外来種 = 外来種の中でも在来種の絶滅につながる恐れがあるなど、生態系や人間の生活に大きな影響を及ぼすもの。
- ・1年草 = 1年以内に種子から発芽、成長、開花、結実をし枯れる草
- ・多年草 = 多年にわたって生育しつづける植物
- ・交雑 = 異種間の交配。  
遺伝子の攪乱(雑種)につながる。
- ・植栽 = 種子や苗等を用いて人間が意図的に植えた植物
- ・園芸(種) = 人が鑑賞用等に品種改良を行った植物
- ・留鳥 = 季節による移動をせずほぼ同じ場所にいる鳥
- ・渡り鳥 = 食料、寒暖、繁殖などの事情に応じて定期的に長距離を移動する鳥
- ・幼生 = こどものこと。例:オタマジャクシ=カエルの幼生
- ・逸出種 = 栽培目的の植物が逃げだし野生化したもの  
なったもの
- ・♂ = オスを示す記号
- ・♀ = メスを示す記号
- ・婚姻色 = 繁殖期に現れる平常時と異なった体色や斑紋。
- ・孵化 = 動植物の卵が孵(かえ)ること
- ・照葉樹(木) = 冬で落葉しない広葉樹。

参考資料

- ・WWF・ジャパン ホームページ
- ・環境省ホームページ
- ・滋賀県立琵琶湖博物館ホームページ
- ・ウィキペディア
- ・日本野鳥の会ホームページ
- ・地球規模生物多様性状況第4版 環境省
- ・豊田市平成23年生き物調査マニュアル
- ・岐阜大学教育学部理科教育講座webデータベース
- ・生物多様性民間参画ガイドライン 環境相自然環境局編 成山堂
- ・わくわく理科4<平成26年用> 啓林館
- ・あたらしいせいかつ上<平成21年10月検定版> 東京書籍
- ・琵琶湖湖辺域の外来植物と貴重植物 滋賀件琵琶湖環境科学研究センター
- ・新水辺の鳥 日本野鳥の会
- ・さんぽで撮ろう都会のみじかな野鳥たち 鈴木研二 雷鳥社
- ・散歩で見かける野の花・野草 金田 一 日本文芸社
- ・四季の花[春] 創元社
- ・四季の花[夏] 創元社
- ・四季の花[秋・冬] 創元社
- ・ヤマケイポケットガイド⑮きのこ 小宮山勝司 山と溪谷社
- ・山溪ポケット図鑑①春の花②夏の花③秋の花 鈴木康夫 山と溪谷社
- ・野山の野草 勝山輝男 小学館
- ・野草・雑草の辞典530種 東西社
- ・色別草花・野草700種 奥山春季、奥山和子 主婦の友社
- ・四季の山野草 田代道彌 創元社
- ・12ヶ月楽しむ花づくり 平田幸彦 日本文芸社
- ・雑草の呼び名辞典 亀田龍吉 世界文化社
- ・雑草の呼び名辞典(散歩編) 亀田龍吉 世界文化社
- ・山溪ハンディー図鑑11 日本の野菊 いかりまさし 山と溪谷社
- ・日本の昆虫1400①② 文一総合出版
- ・フィールドガイド日本のチョウ 日本チョウ類保全協会編 誠文堂新光社
- ・イモムシハンドブック②・③(計3冊) 安田 守 文一総合出版
- ・日本の野鳥650 平凡社
- ・山溪ハンディー図鑑7 日本の野鳥 山と溪谷社
- ・原色日本蛾類図鑑(上・下) 保育社
- ・原色日本昆虫図鑑(上・下) 保育社
- ・原色日本蝶類図鑑 保育社
- ・原色日本クモ図鑑 保育社

\* 青字は多賀町立博物館および図書館の蔵書です。

協力 : 多賀町立博物館 学芸員 清水優子 様  
学芸員 川畑幸樹 様

多賀植物観察の会

森小夜子 様

撮影機材

- ・ソニー α57
- ・ソニー α77
- ・ペンタックス K20D
- ・オリンパス PEN-EP2
- ・ペンタックス Q7
- ・キャノン Kiss F50X
- ・ニコン S30
- ・シグマ AFmacro 105mmf2.8
- ・シグマ AFmacro 50mmf2.8
- ・ミルタ α 75~300mmf4.5~5.6
- ・ソニー A30mmf2.8
- ・ソニー A18~70mmf3.5~5.6
- ・ソニー A75~300mmf4.5~5.6
- ・ルミナス 14~42mmf3.5~4.5
- ・タムロン AF70~210mmf4.5~5.6
- ・キャノン EF-S 18~55mmf3.5~5.6
- ・タムロン AF75~300mmf4.5~5.6
- ・ペンタックス Q5~15mmf3.5~5.6



積水化学工業株式会社多賀工場

〒522-0314

滋賀県犬上郡多賀町大字四手字諏訪510-5

TEL0749-48-8070(代表) FAX0749-48-0009

2016年 7月30日 (改定2版)